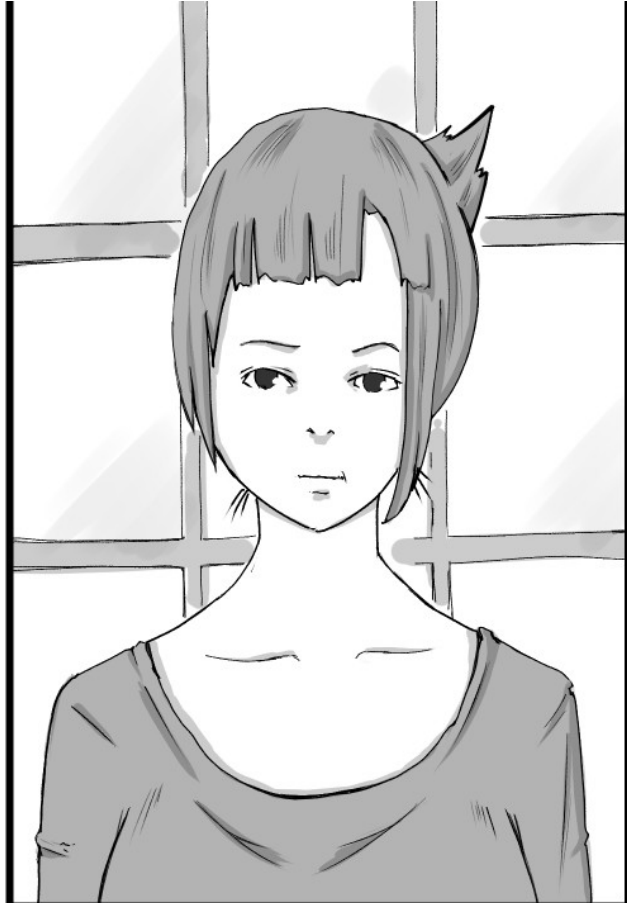
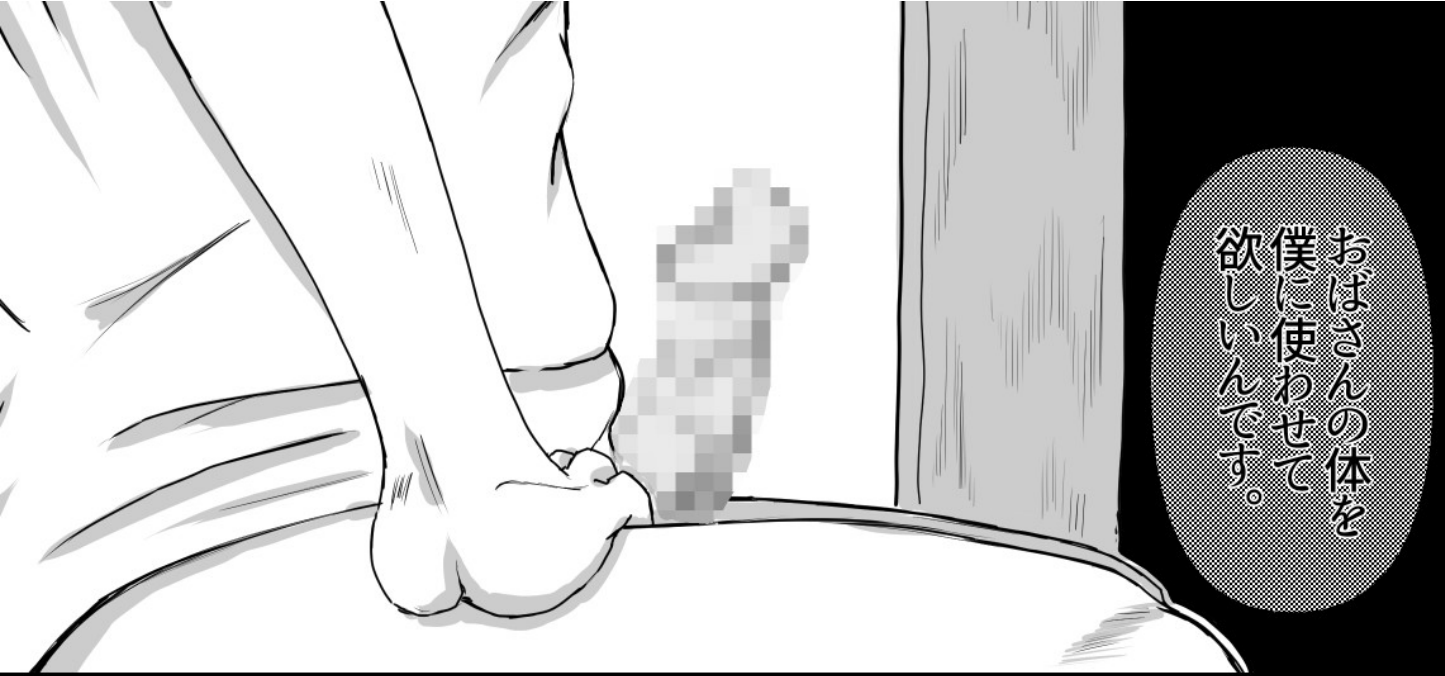




僕の おばさん







おばさんの体を
僕に使わせて
欲しいんです。



いっぱつ

え。

ヤラせて
ください。

おばさんは
とっくに気付いてる
と思いますが

物心ついた頃から
おばさんをエロい目で
見続けてきました！

怒られない程度に
乳首を探したり
ちんこ触らせたり

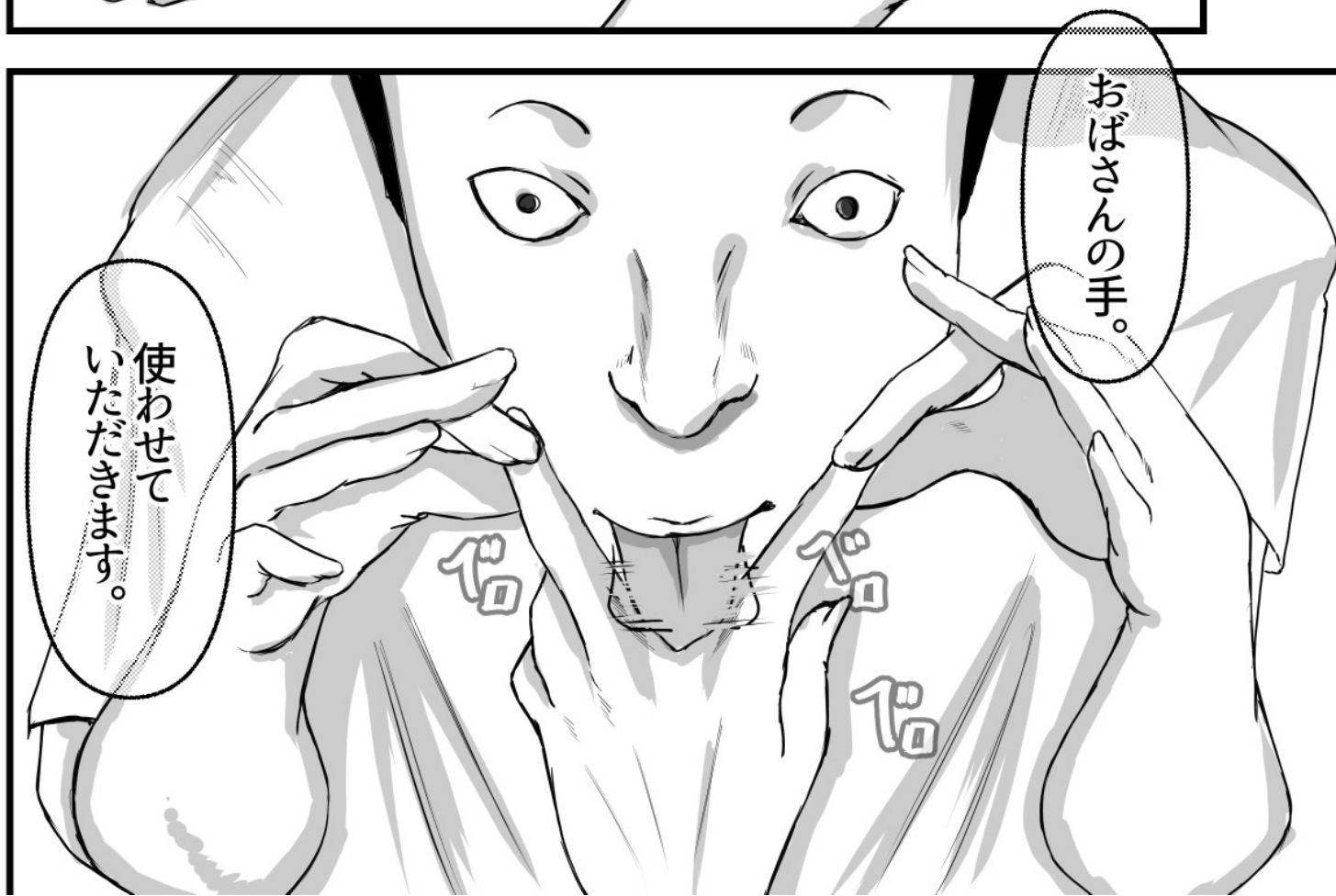
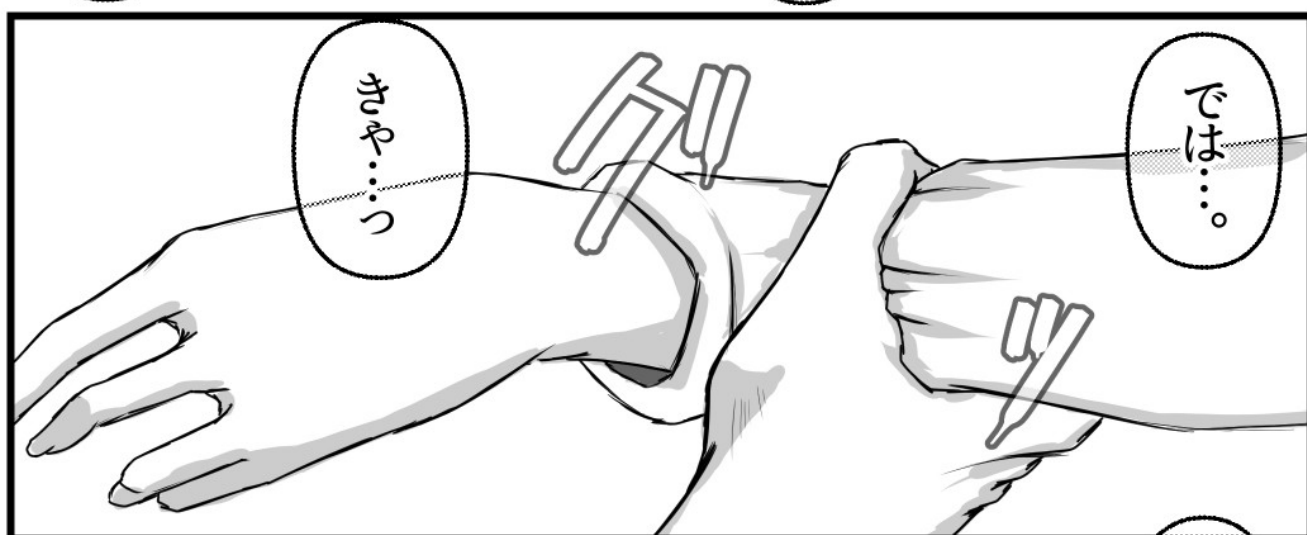
ゆうじ君ってば
あまえんぼー♪

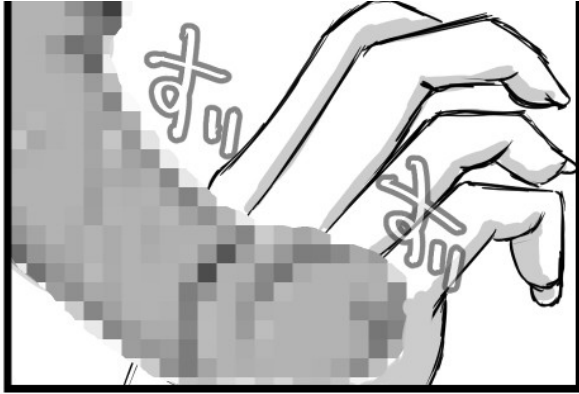
その記憶をオカズに
オナニーで我慢して
来ましたが

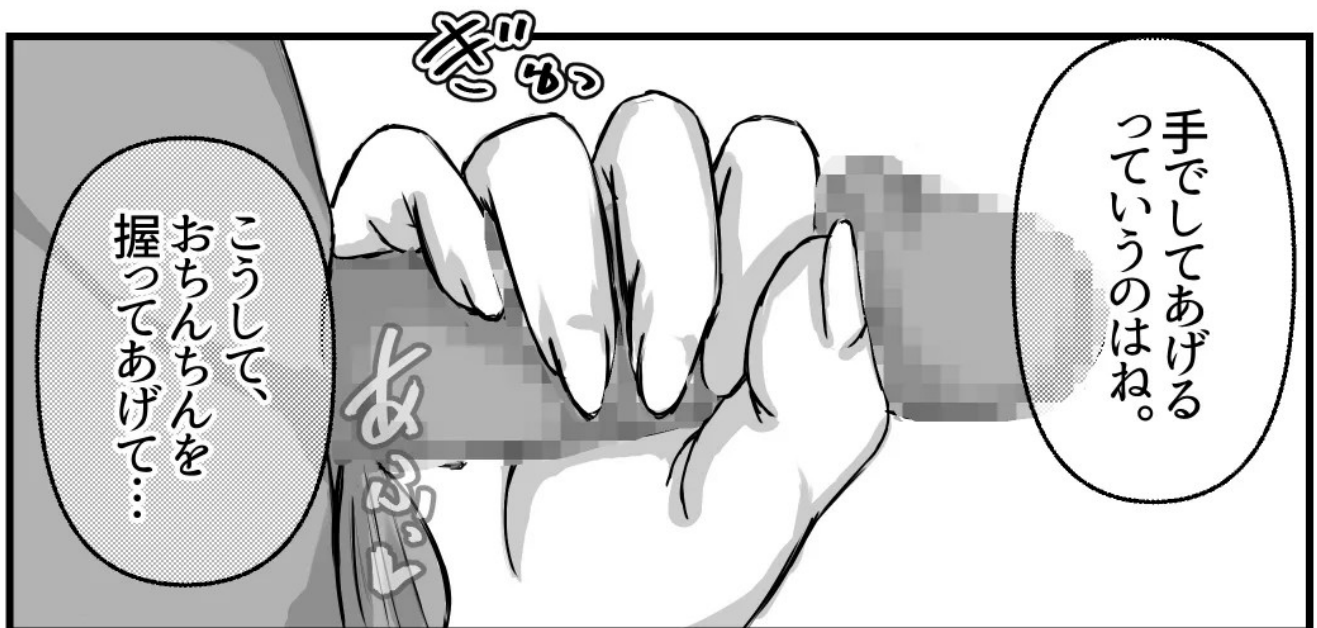
もう、我慢の
限界なんです。

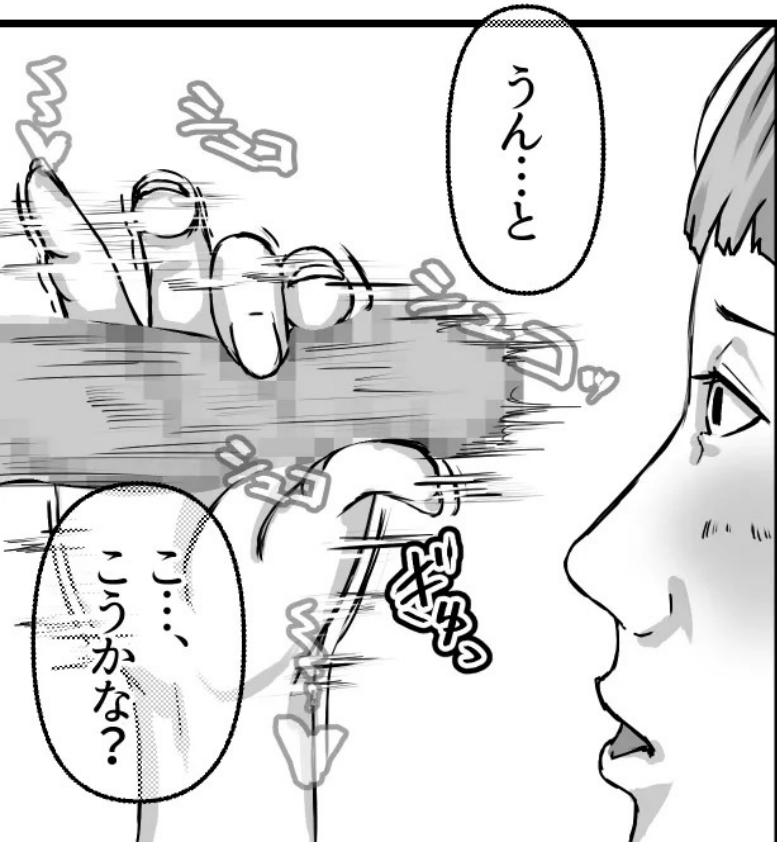
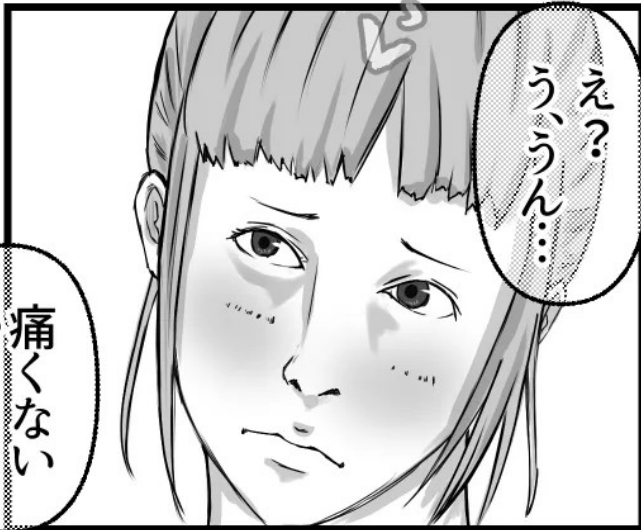
ゆうじ君
そのは世にさなクダメ。...





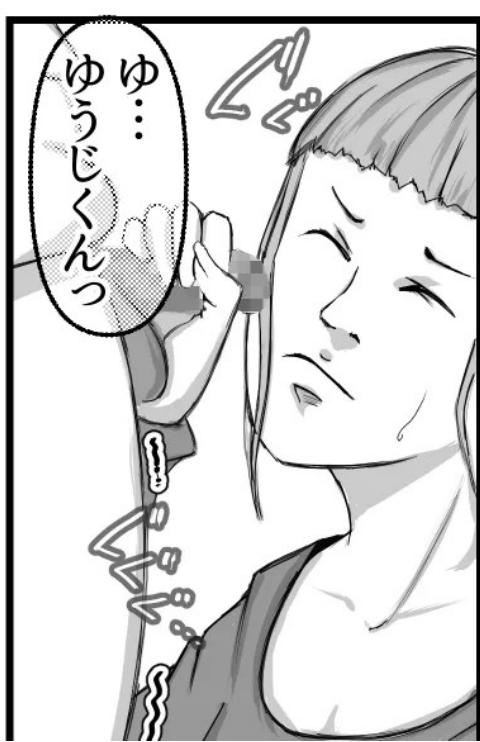
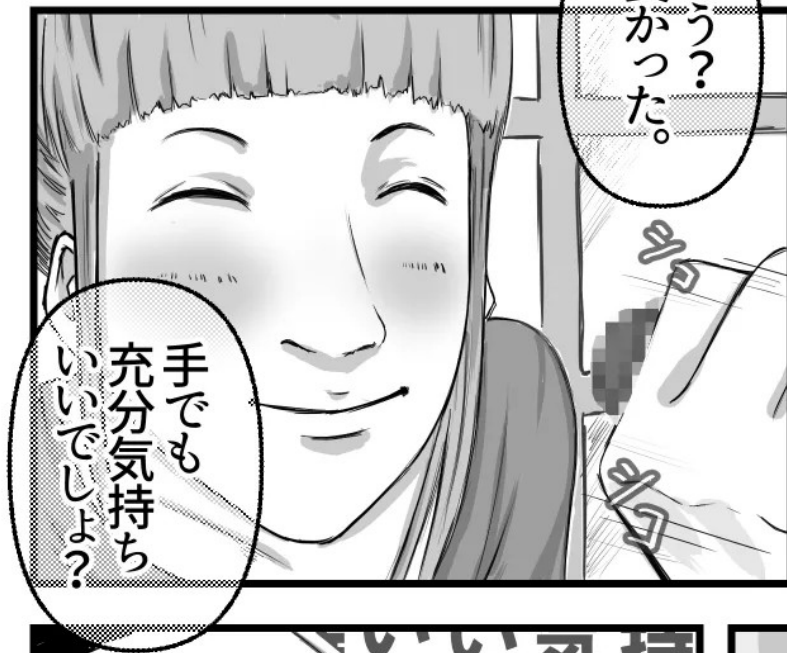




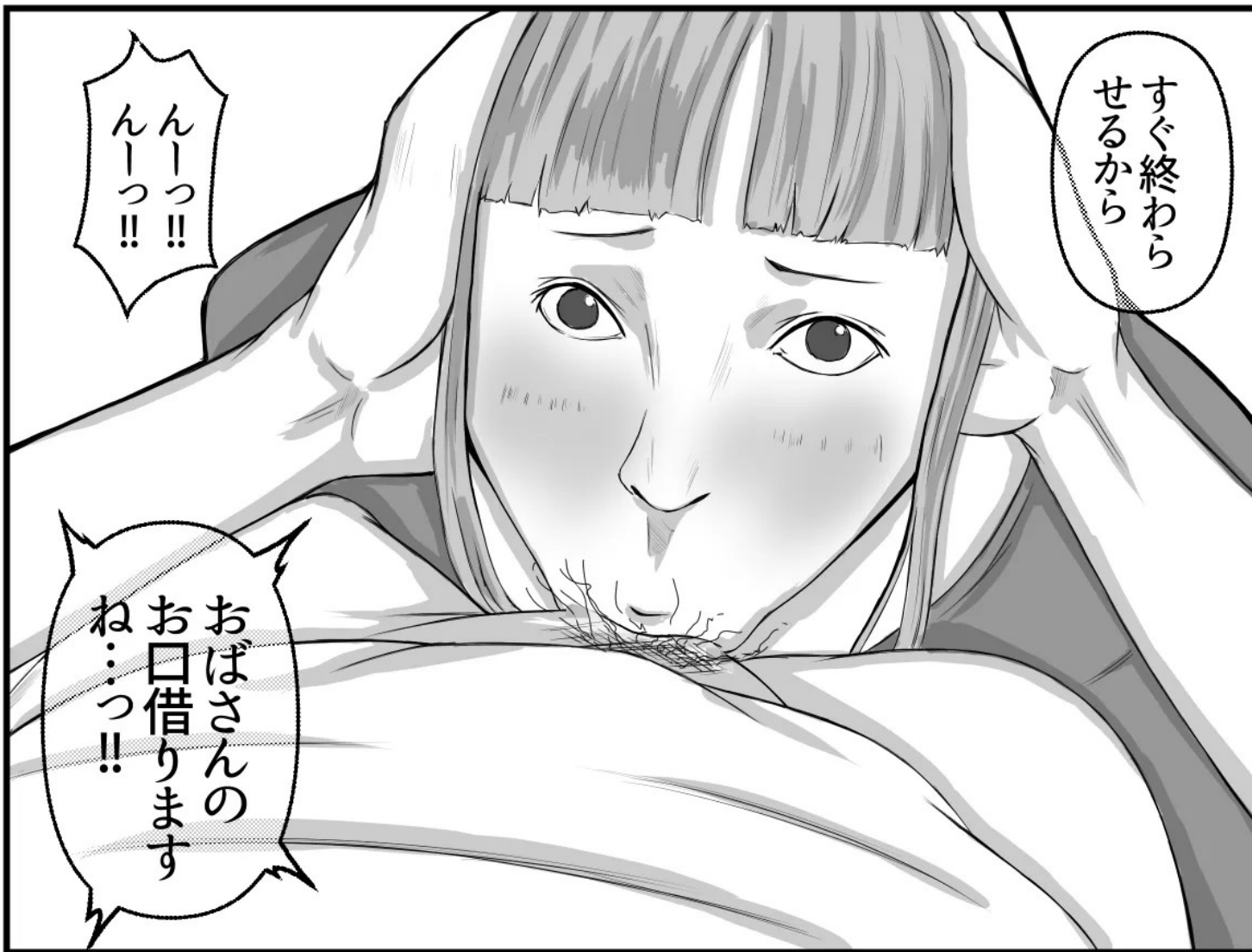


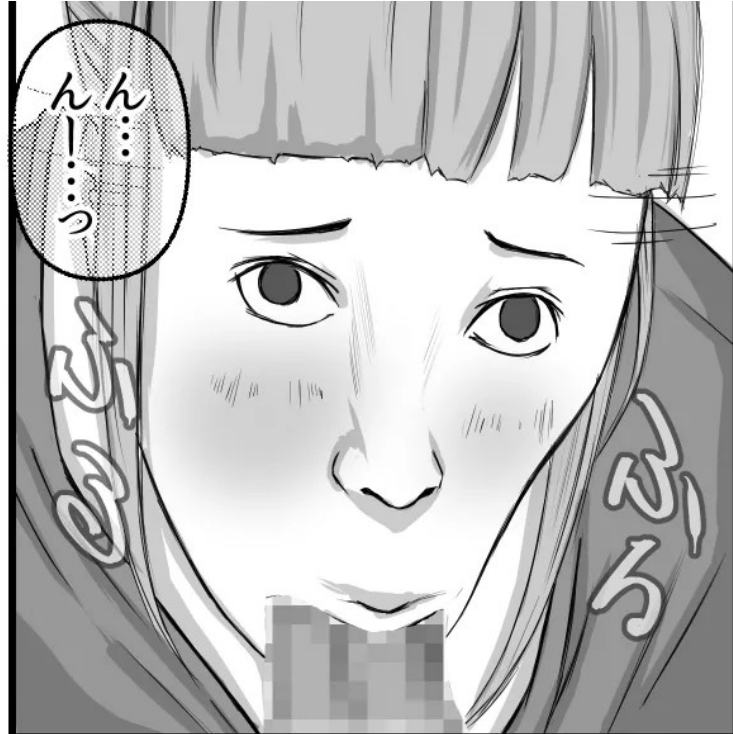


そう？
良かった。











やっぱりパンツ
は必要だな…。

おばさん。

パンツ見ても
いいですか？

えっ!?

良くおばさんの
パンツ嗅ぎながら
オナニーしてた
んです…っ

ええ…
っ!?

もうクセに
なっちゃって…

あれ…?

入らない。

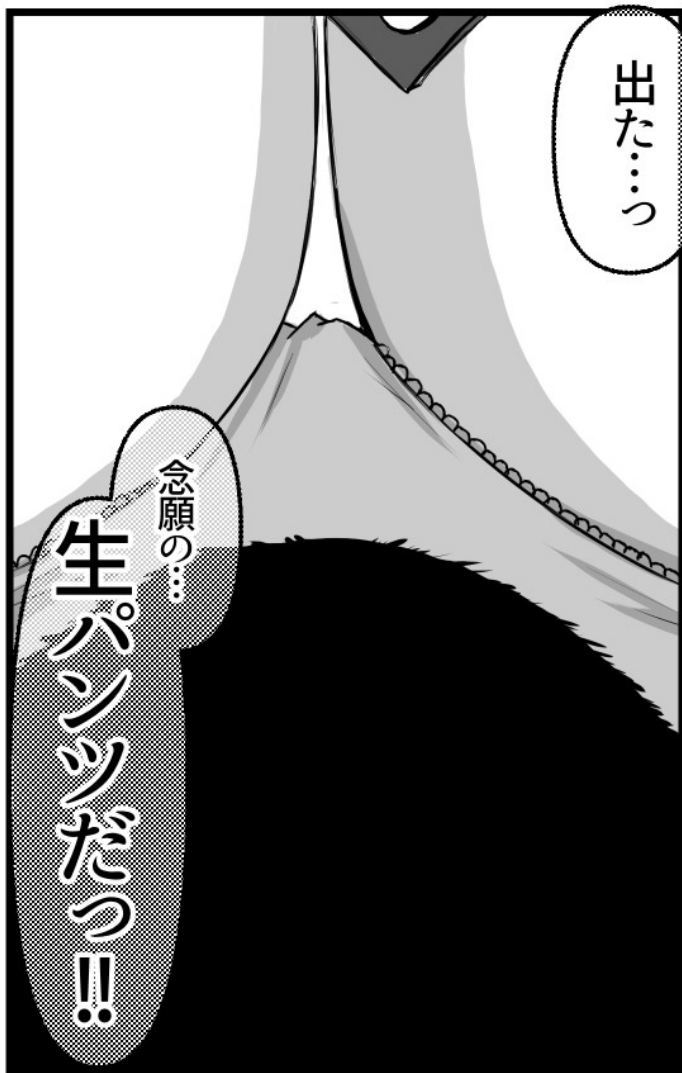
や…っ

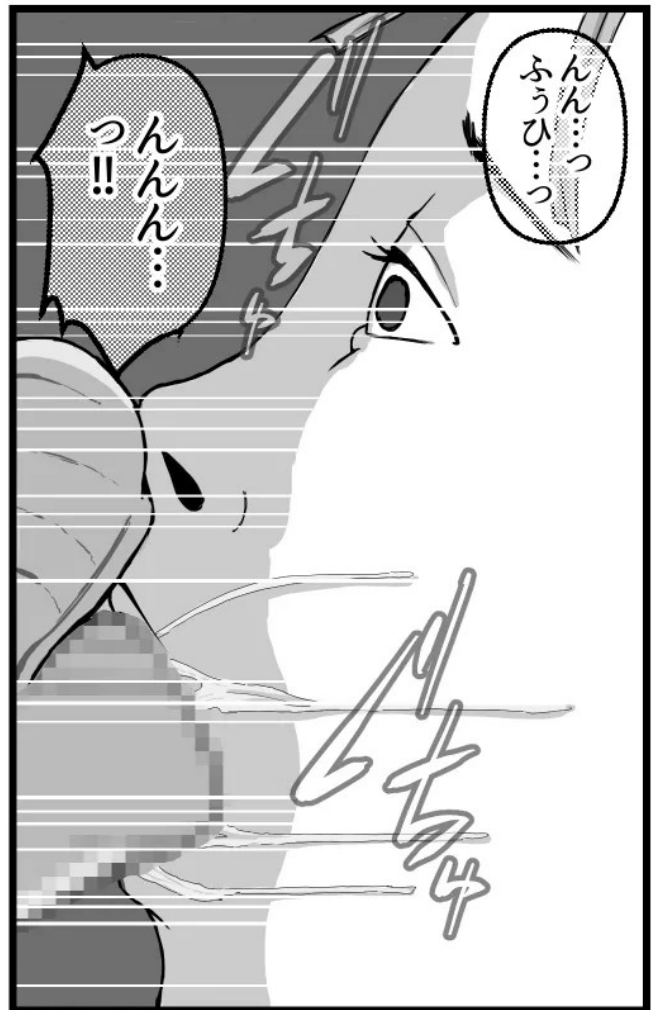
おばさんっ
早く早くうっ

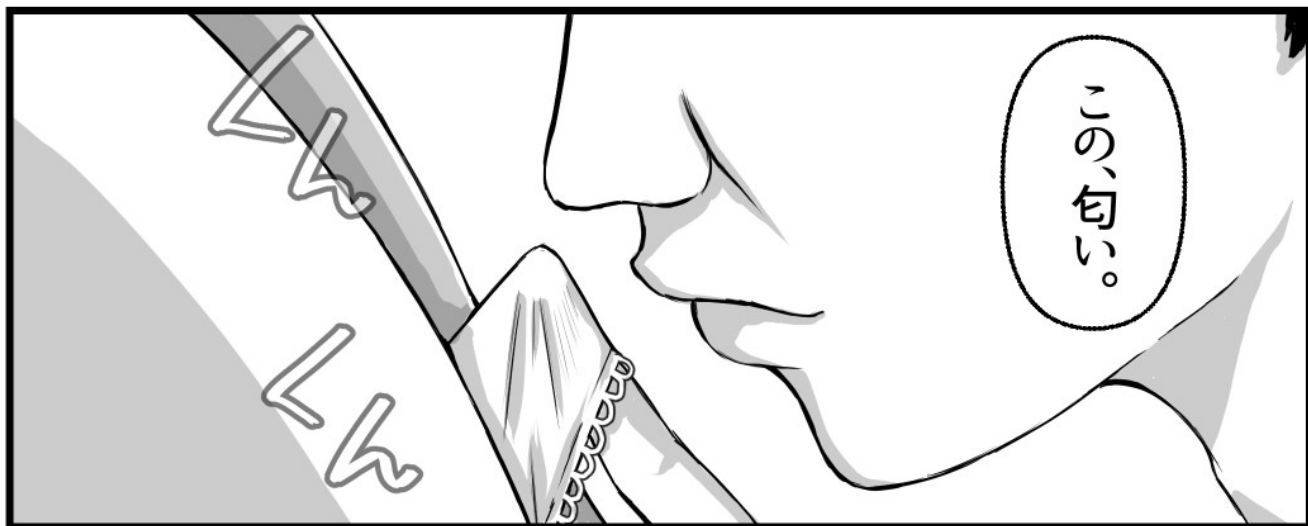
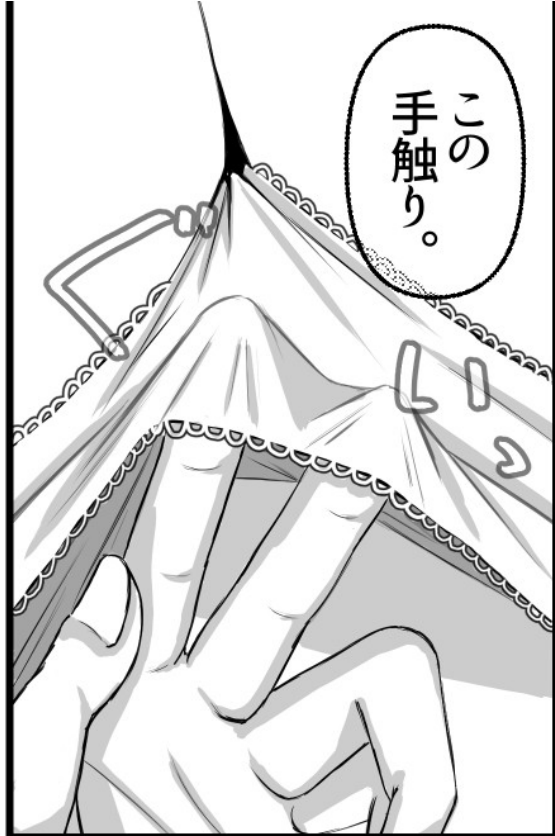
えっ…えっ?

入った♥

ふえ…っ?



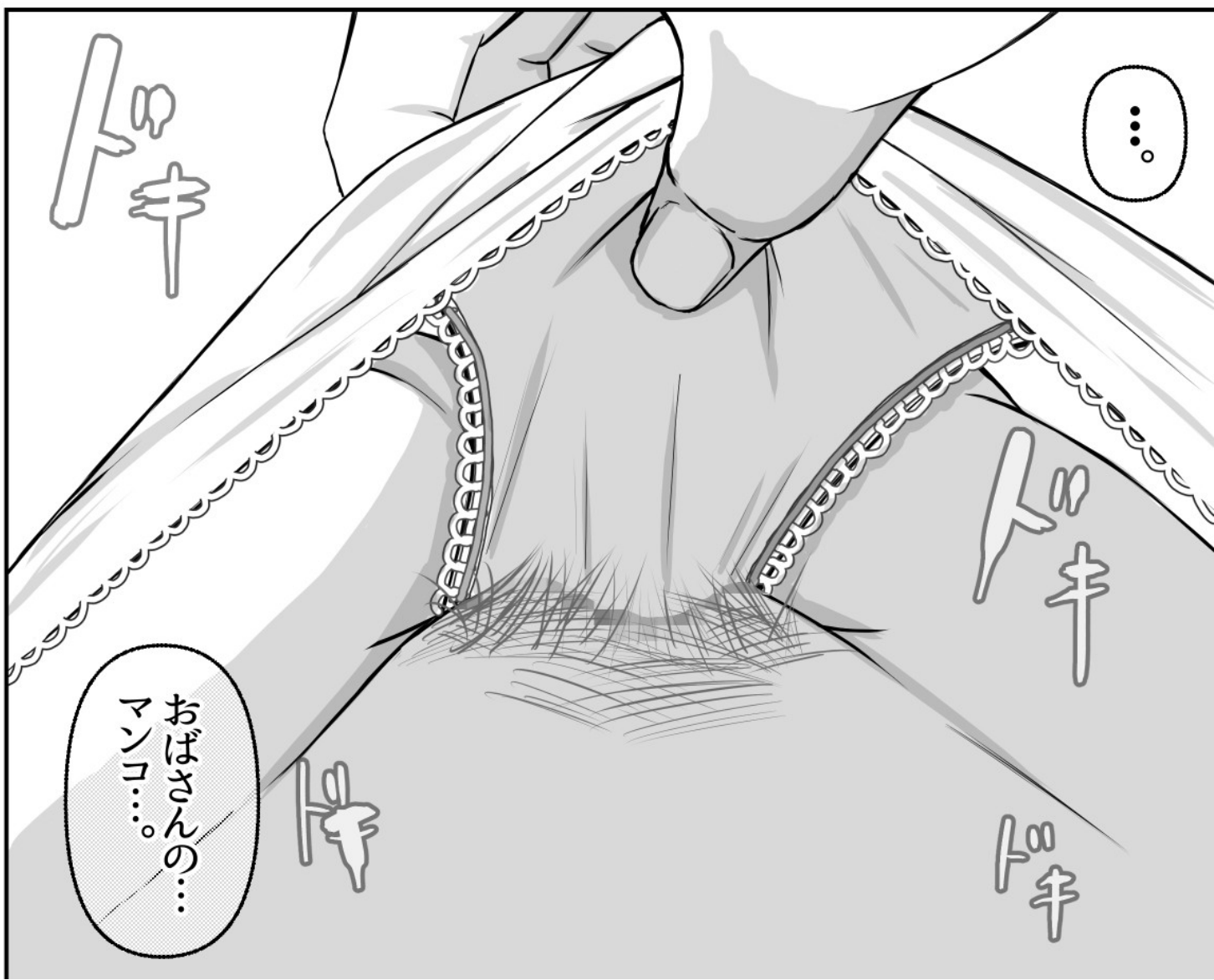




いつの頃からか
パンツ自体に
興奮する様にな
っていました。

パ
ン
ツ
最
高







そうだ…。

パンツが目的
じゃない…。



んーんーッ!!
んーんっ!!

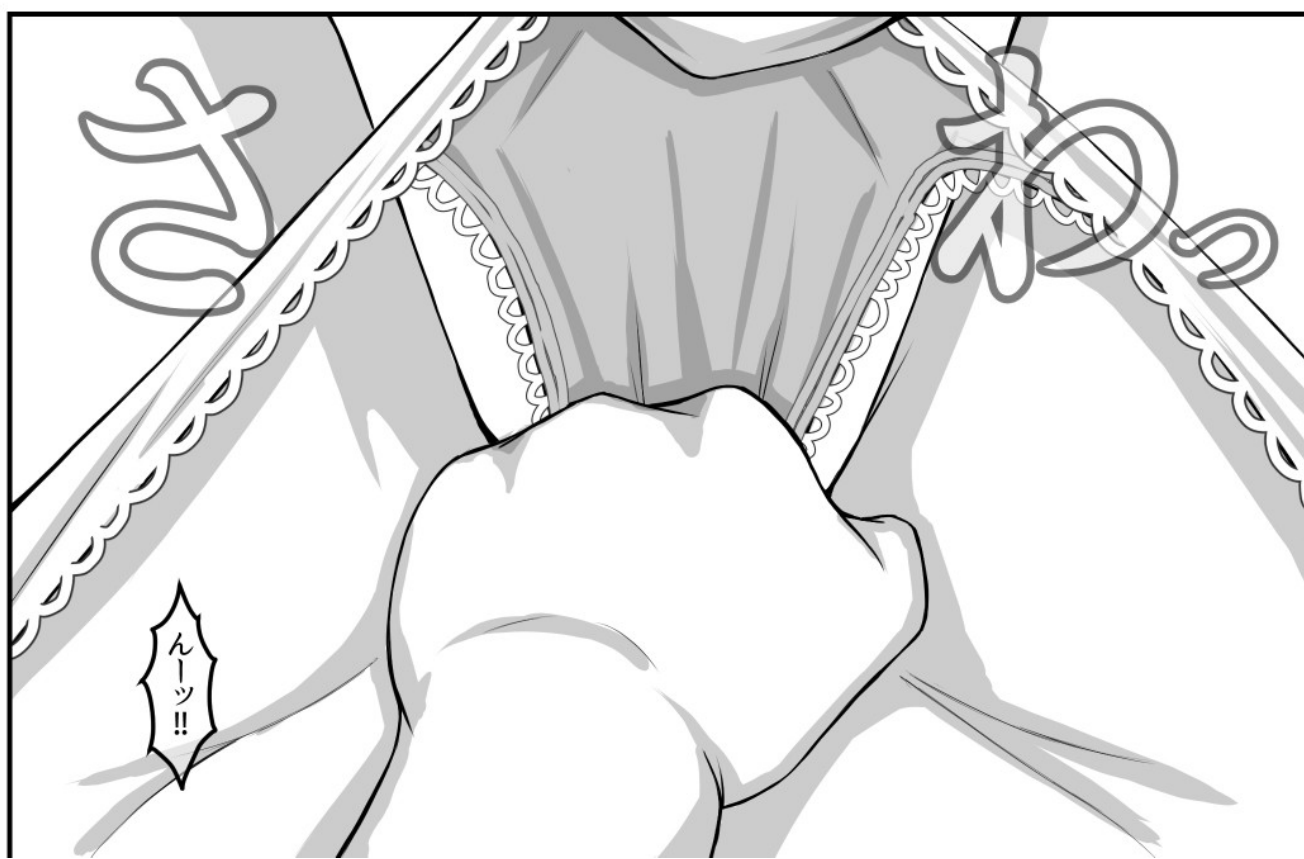


今日は、おばさんと
セックスするつもりで
色々打ち明けたんだ。

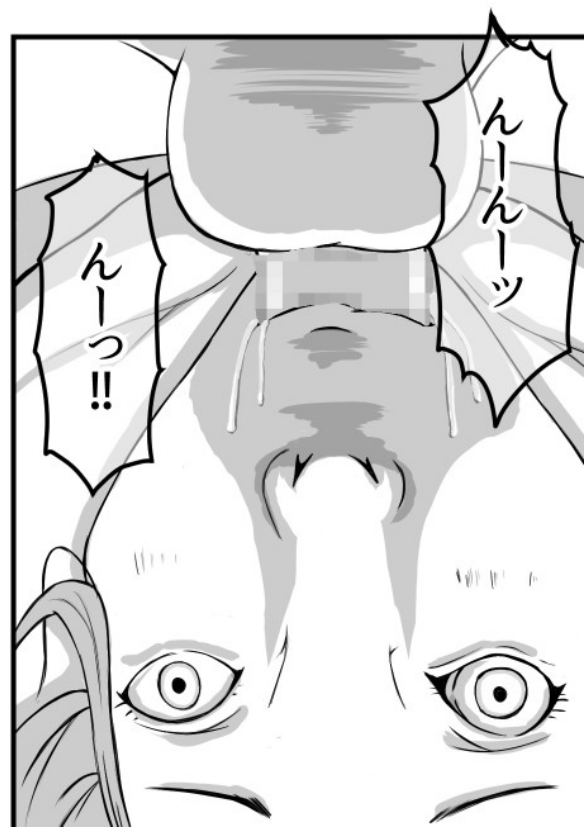
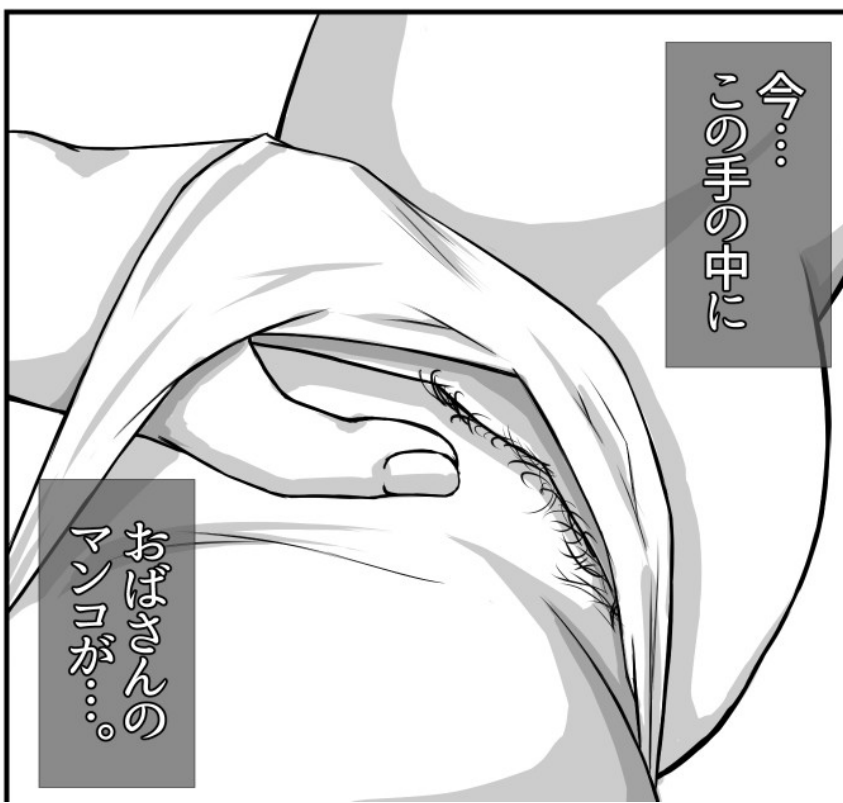
おばさん…。

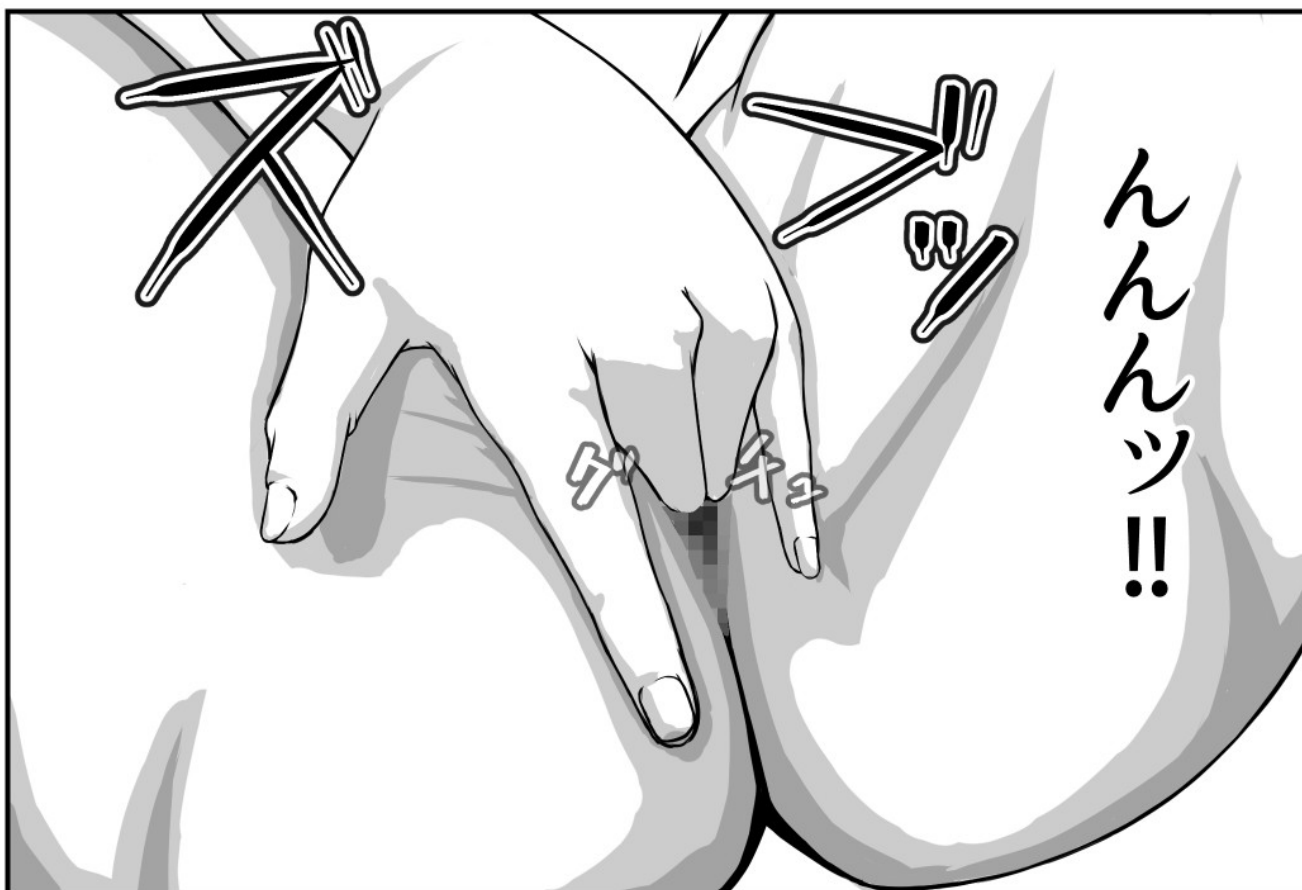
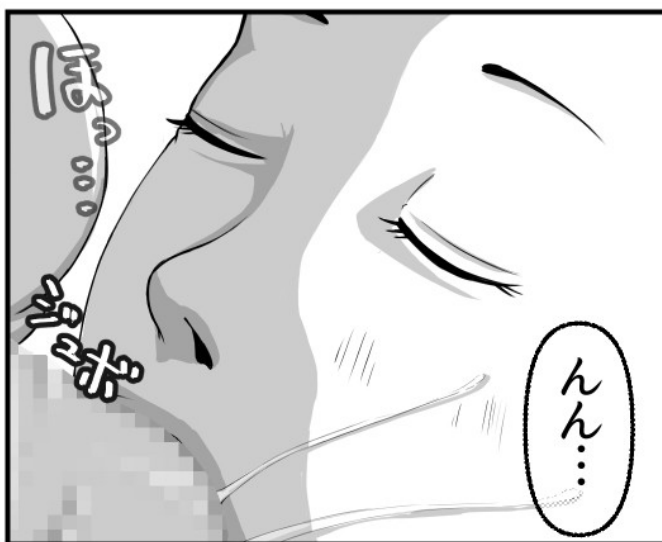
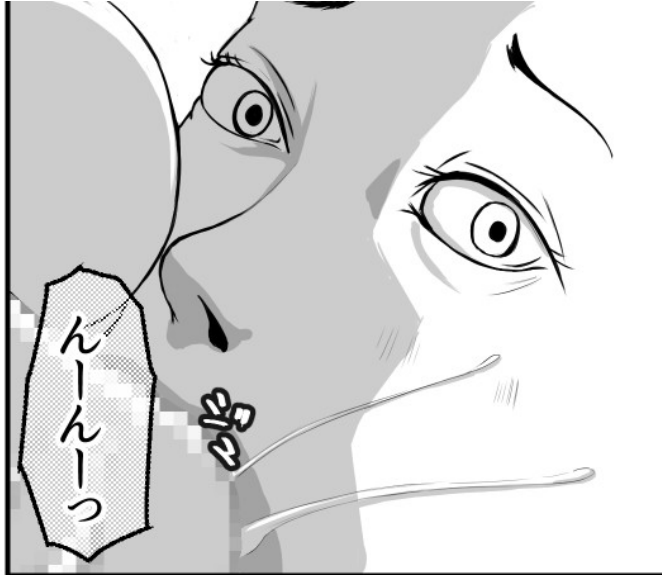
裏地も触らせて
もらいますね…。

パンツに浮かれてる
場合じゃ無かった。



んーッ!!





あ…おばさんの
マンコの感触…

でこぼこした
お肉が僕の指を
押しつぶしに来る…。

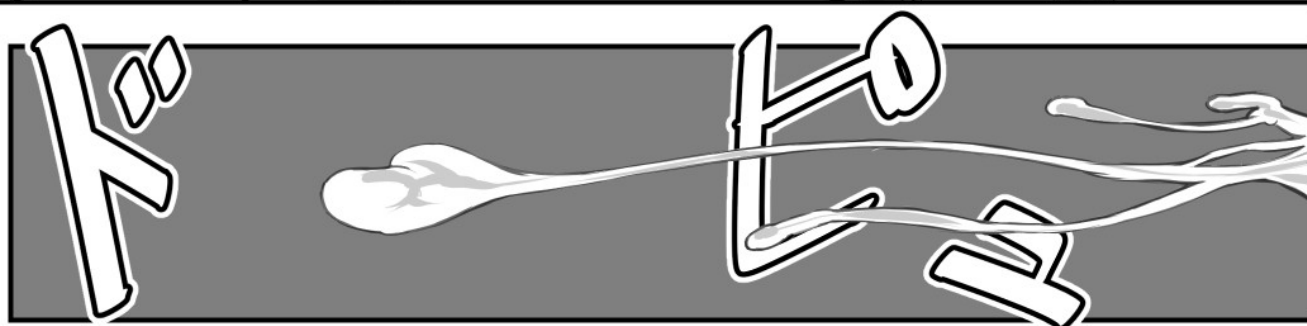
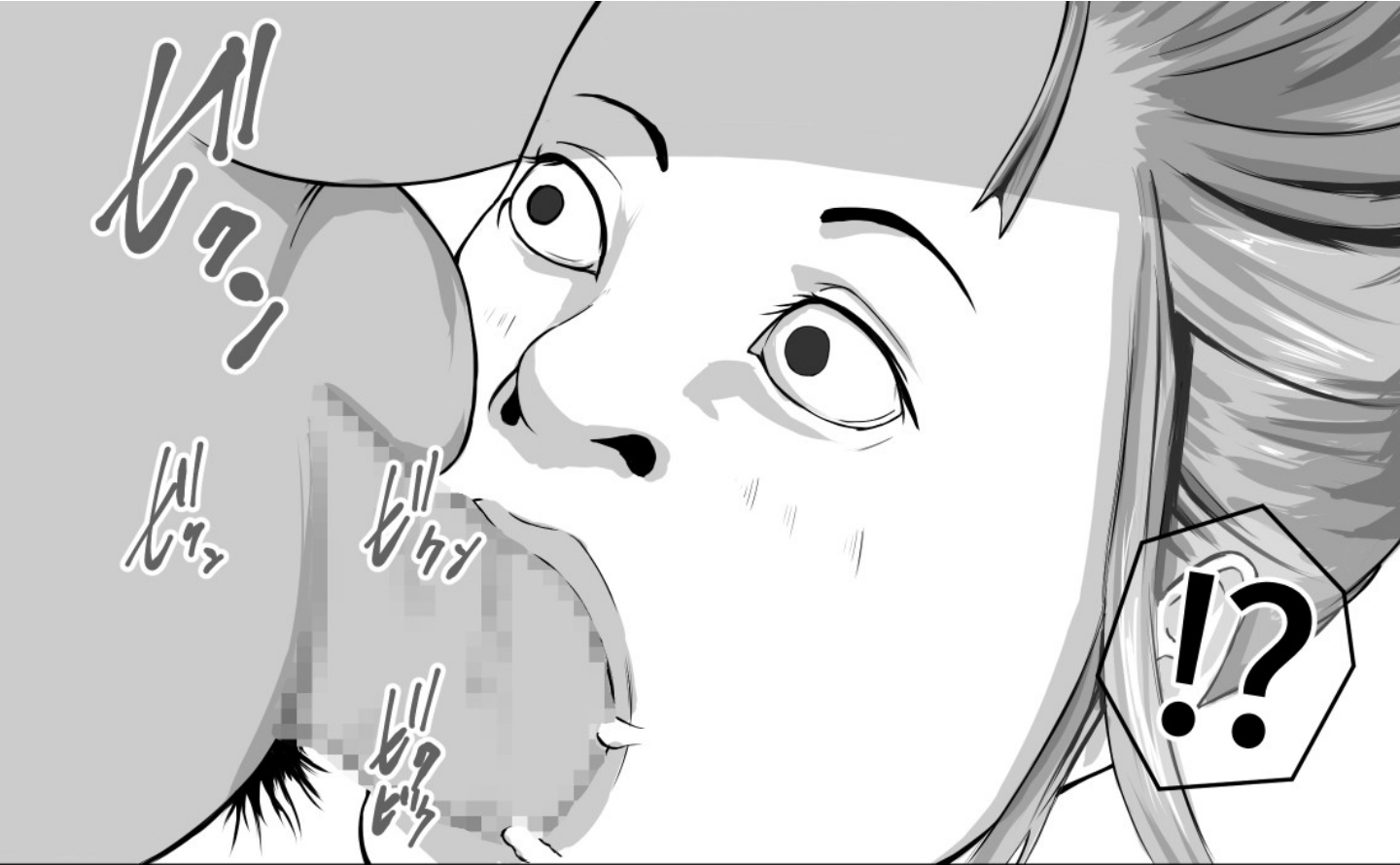
ここにちんちんを
挿れられたら…

あ…

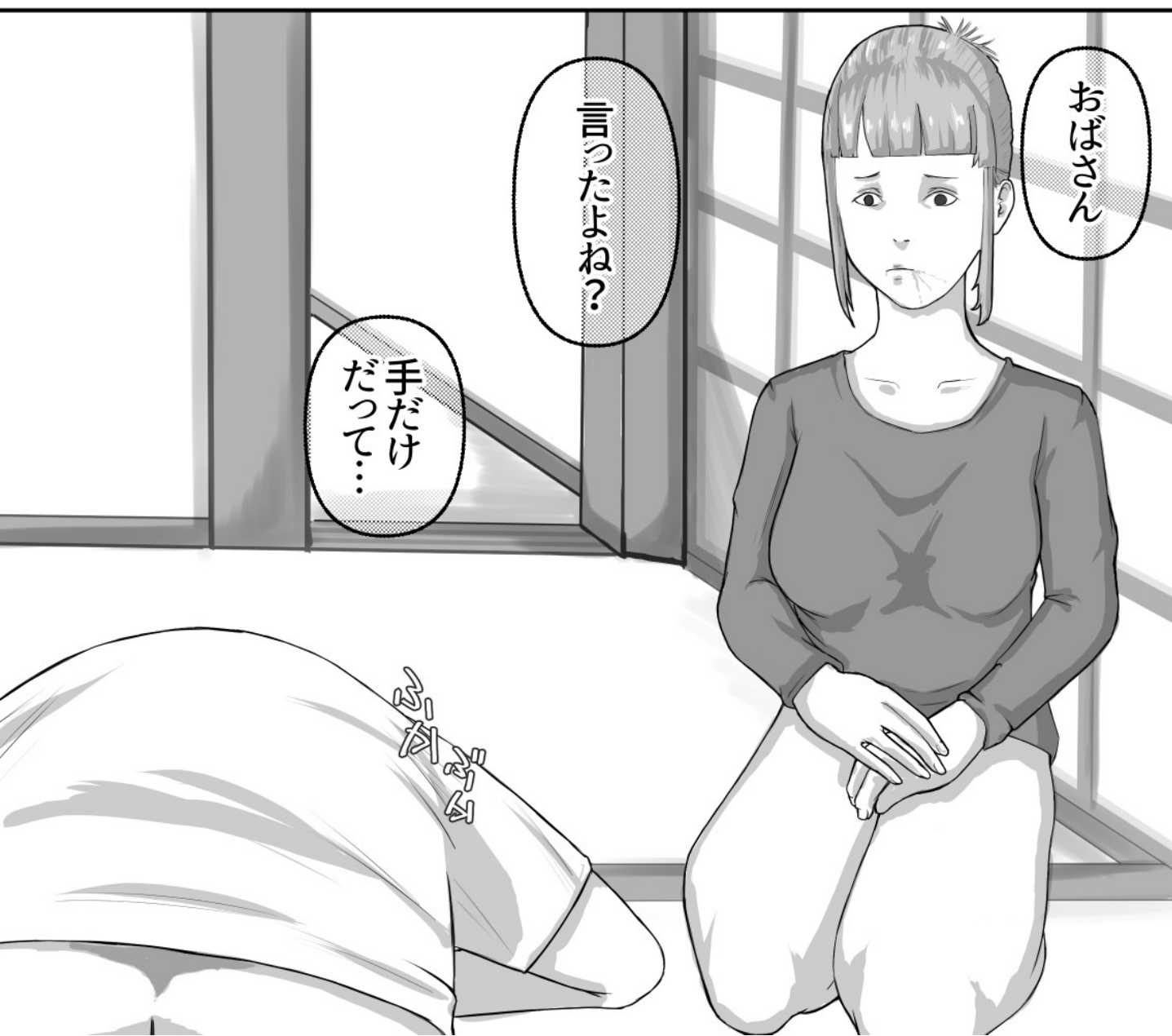
イク…
♡

くちゅ

くちゅ









うーん…。

んー…やつぱり
エッチはダメ。
甥っ子とは
出来ないよ…。

さっきも
言っただけど…

手でならまた
してあげるから。
それで我慢でき
ないかな？

そう...

ジュン...

...ですか。



…分かりました。

じゃあ、手で
こういうの…
できますか？

ん？

ん？…ん？…

そうです。

そのまま手を
下げてこの辺り
でとめて下さい。

こう…

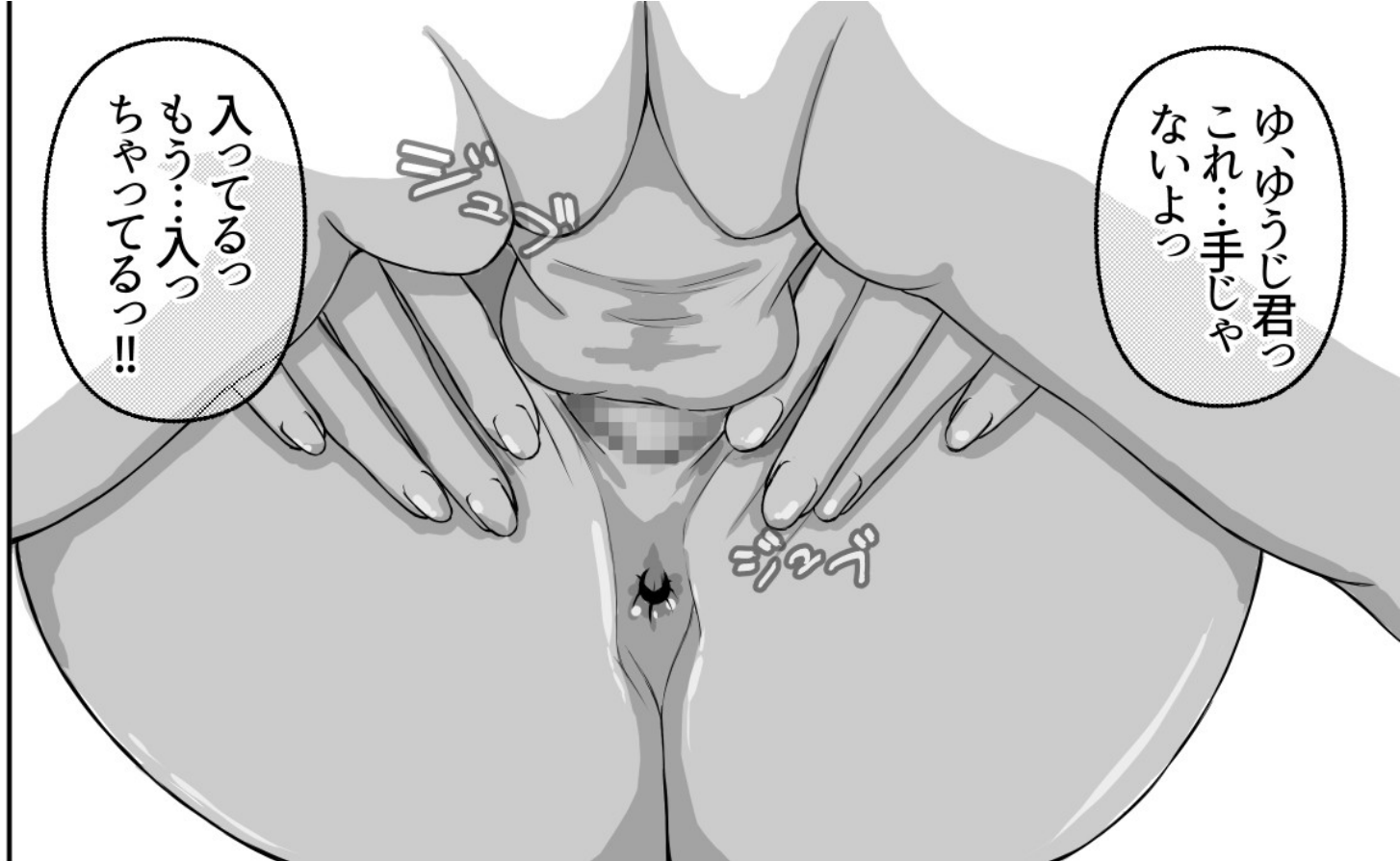
かな？





ゆ、ゆうじ君っ
これ…手じゃ
ないよっ

入ってるっ
もう…入っ
ちやってるっ!!

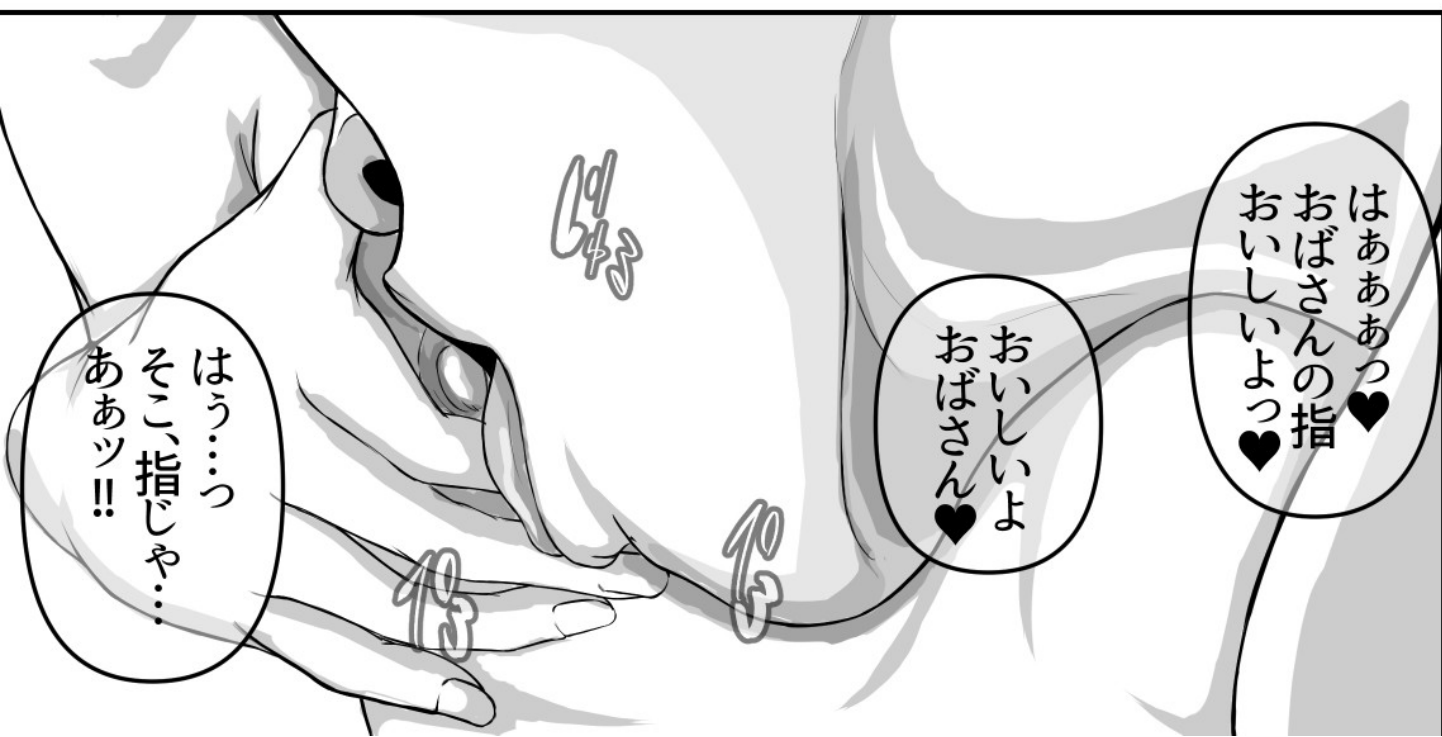
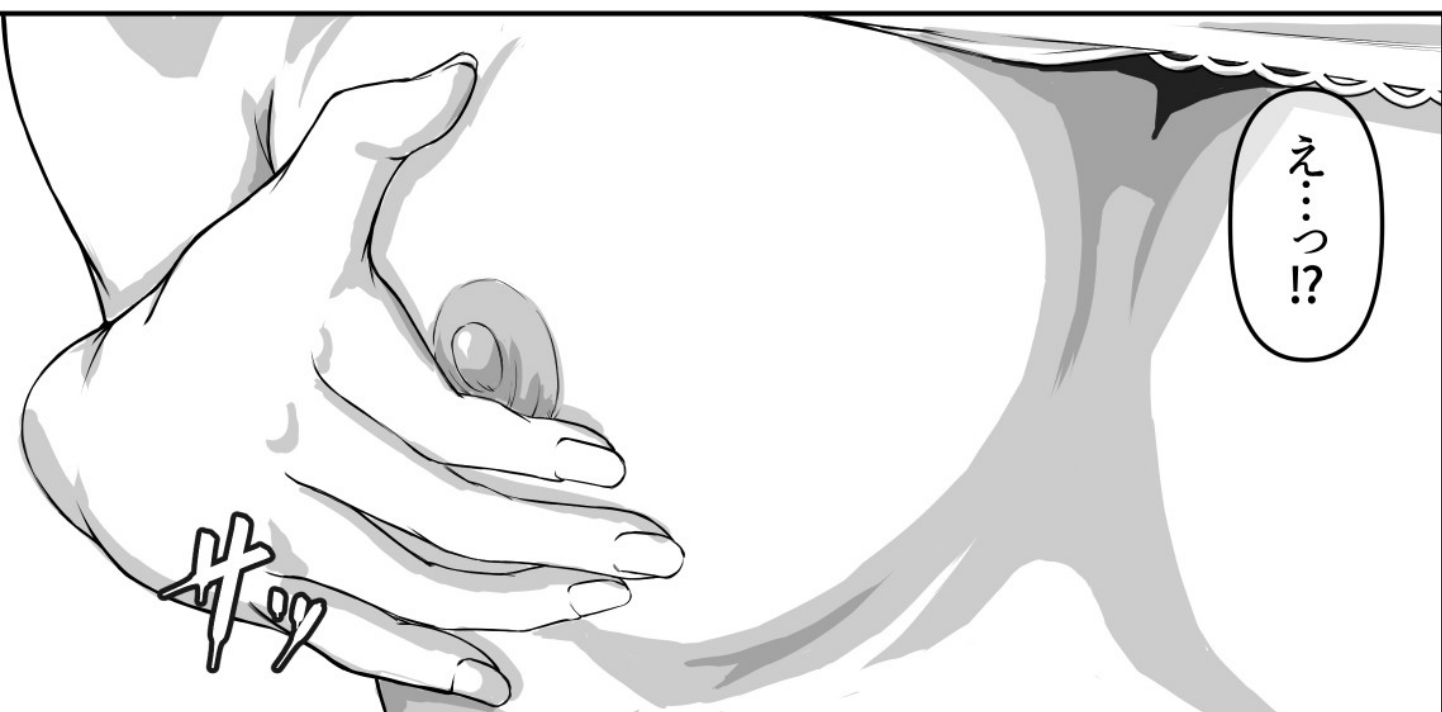


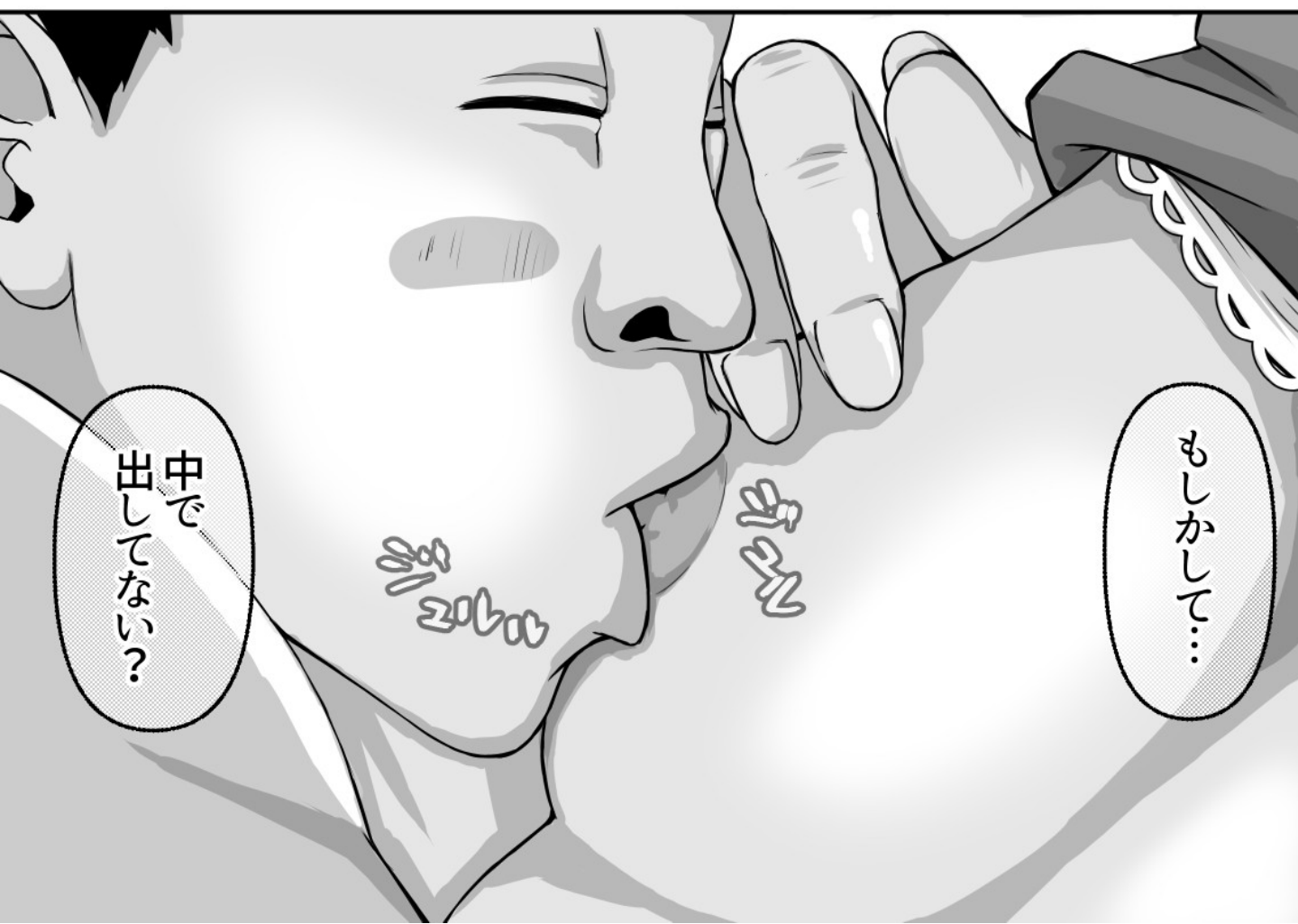
だ、ダメだ
って…っ

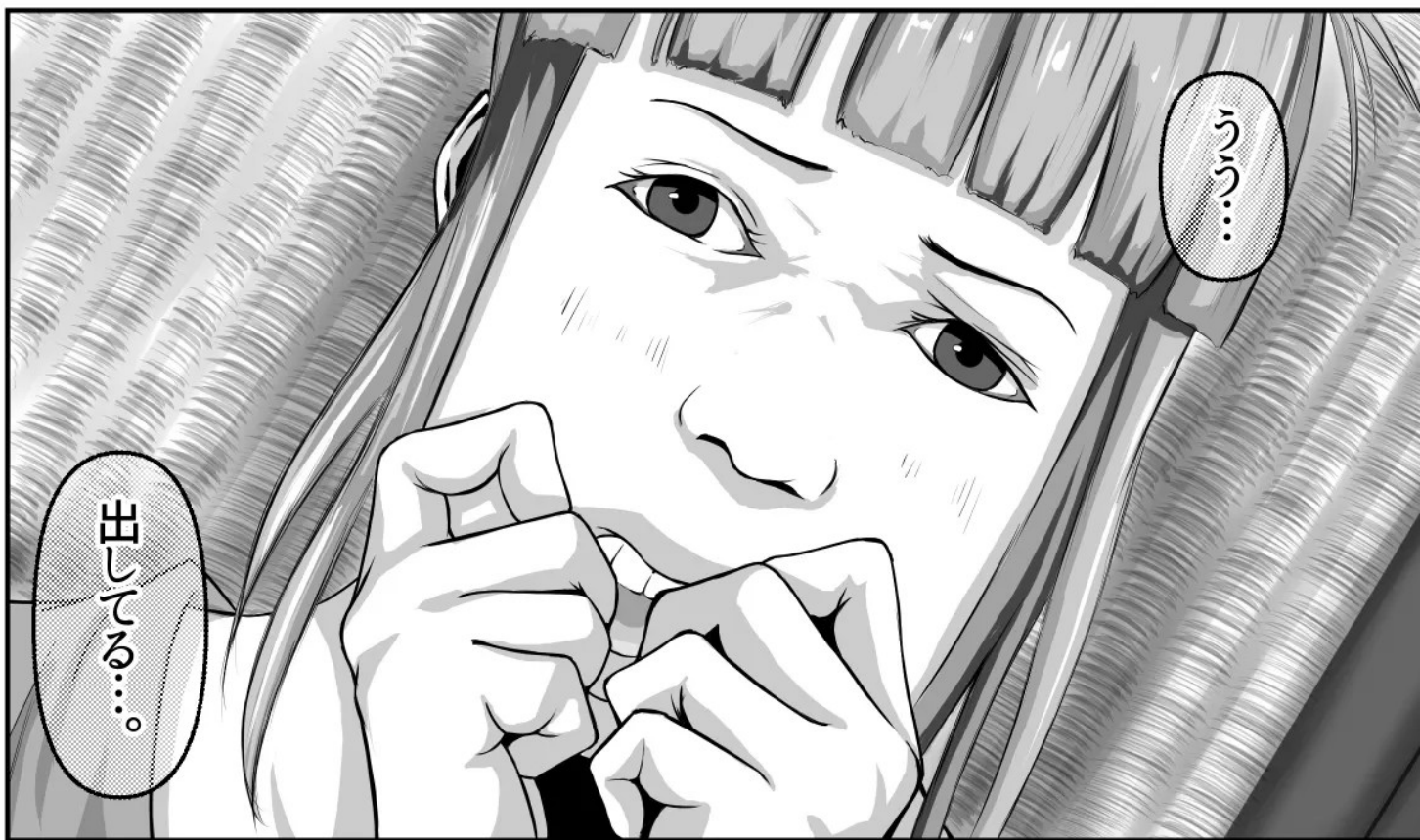
おばさんっ
こっにも!

こっにも
手置いてっ









おばさん…
おばさんっ

大丈夫…
大丈夫だから…っ

はは
はは

っ

ん
ん
っ

やめる
からっ!!

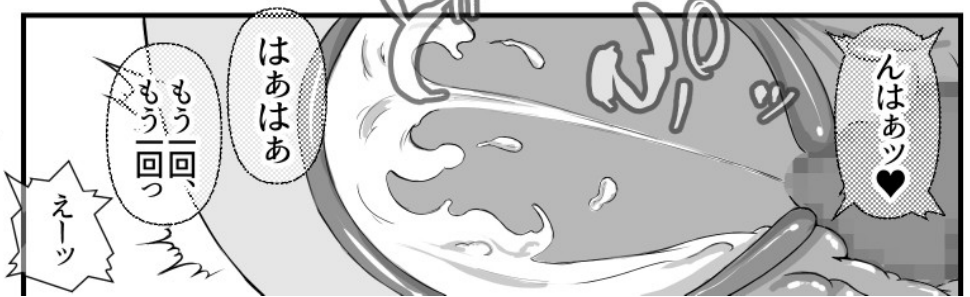
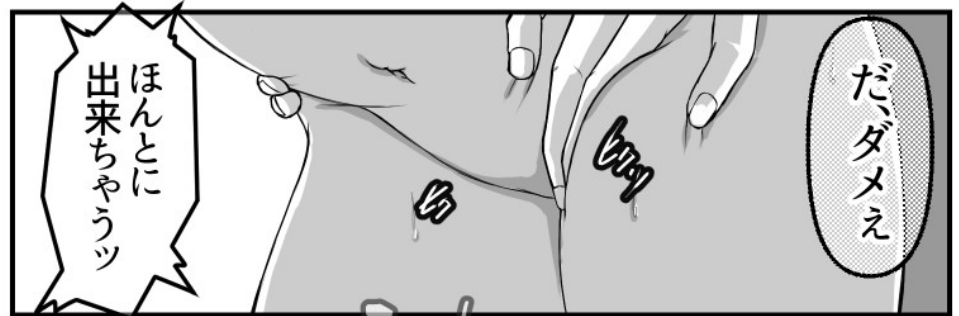
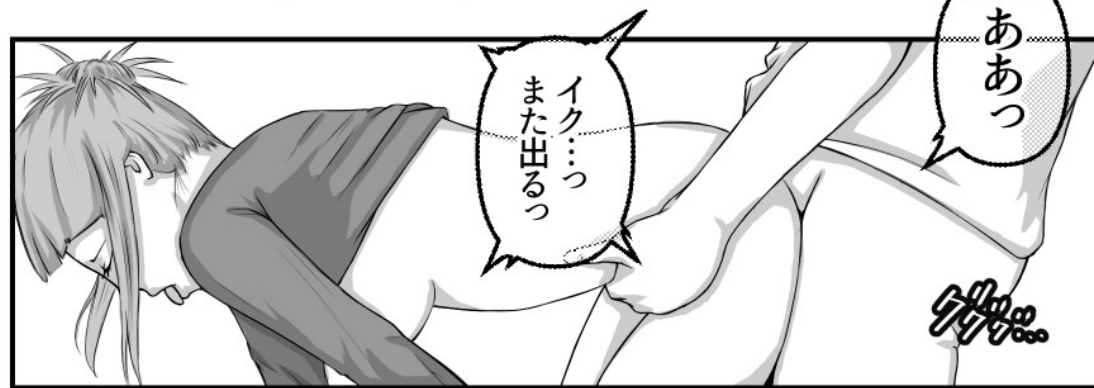
もう一回
出したら…

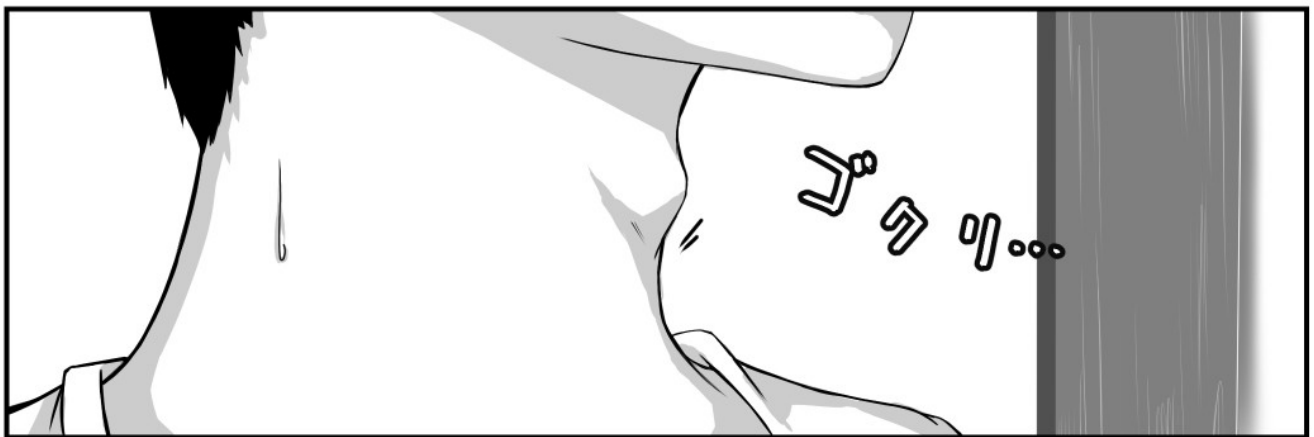
ん

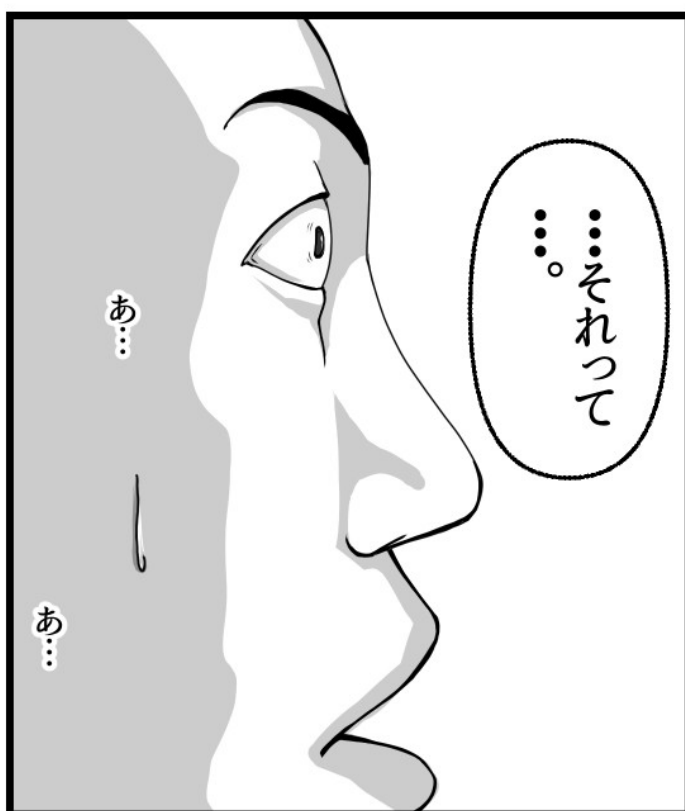
っ



それから...









完